

昭和11年 施工の橋梁 土木学会の『選奨土木遺産』に認定

弊社が昭和11年（1936年）に施工した岡山橋が、公益社団法人 土木学会の平成24年度『選奨土木遺産』に認定されました。本橋は北海道岩見沢市に位置し、『道内に現存する数少ない戦前の鋼道路橋（4橋）の1つであり、北海道で最初に架設されたソリッドリブ・タイドアーチ橋』との理由により認定されました。

本橋は弊社が北海道庁（現：国土交通省北海道開発局）札幌土木事務所より、工事費 53,531 円 96 銭で請け負ったものです（白米 10 kg=約 2 円 50 銭の時代）。橋梁の概要は、橋長 55m、幅員 7.5m、鋼重 205 トンで、大阪市東淀川区東柄浜一丁目（現：大阪市北区長柄東1丁目）にあった弊社の旧本社工場で製作しました。また、当時は国道 27 号線（現：国道 12 号線）の橋梁として建設されました。76 年経過した現在は、岩見沢市役所が市道として維持管理されておられます。

岡山橋は、弊社が北海道で施工した橋梁としては、大正 13 年、札幌市豊平川に 2 代目の鋼橋として建設された豊平橋に続くものです。昭和初期の弊社は、満州事変のぼっ発による軍事予算の増大や、満州、朝鮮、台湾その他外地向けの受注もあり、その受注量は年間 20,000 トン程度で、ピーク時は月産 2,000 トンの生産をこなさなければならないこともあったようです。

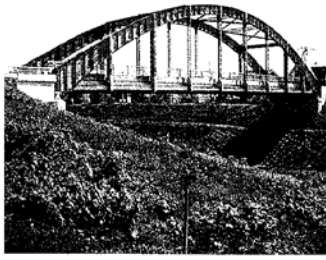


土木学会の選奨土木遺産 戦前の鋼橋「岡山橋」に

「土木の日」記念行事で認定書伝達

公益社団法人土木学会北海道支部（長利秀則支部長）は16日、「土木の日」（11月18日）に合わせ、選奨土木遺産認定書授賞式と記念講演会をホテルポールスター札幌で開催した。

道内で唯一、本年度の選奨土木遺産に認定された「岡山橋」を管理する岩見沢市に認定書が伝達された。講演会では北海商科大の佐藤馨一教授らが北海道新幹線開業に向けた取組や課題を提起した。



竣工から76年たった岡山橋。設計は、道路の神様、高橋敏五郎氏

会場には会員や一般市民ら約百人が詰めかけた。授賞式であいさつした長利支部長は、「二〇一四年の学会創立百周年を機に、これからの百年に向けて学会の研究成果を広く発信していきたい」と述べ協力を求めるとともに、選奨土木遺産に認定された岡山橋について「維持・保全に苦労があると思うが、永久的な管理に力を」と期待した。引き続き、岡山橋を管理する岩見沢市の吉成潔建設部長に、長利支部長から認定書が手渡された。写真

岡山橋は幾春別川をまたぐ旧国道二号に架かる橋長五十五メートルの鋼橋。北海道で最初に架設されたソリッドリフ・タイドアーチ橋で、昭和十一年六月に竣工した。北海道土木技



選定した「戦前に架けられた名橋33」にもリストアップされた岡山橋

ブされ、現存する4橋は岡山橋を最後にすべて選奨土木遺産に認定された。本年度は全国で二十五件が選ばれた。受賞報告に立った岩見沢市土木課の山田甲二道路整備係長は、平成二十年から四年超しで進めた岡山橋の修繕工事について説明。「長寿命化修繕計画にもとづき、今後はアーチ部の塗装も行う」と長期保全に向けた取組を誓った。



冬の岡山橋

